

第7回多摩川流域歴史セミナー

『多摩川下流域の中近世史』
～午前の部：現地見学ツアー～

－開催報告－



『多摩川50景』 六郷 多摩川緑地

平成30年7月14日（土）
多摩川流域懇談会

第7回多摩川流域歴史セミナー

『川崎の歴史を巡るツアー』

開催報告（午前の部）

1 概要

- 日 時：2018年7月14日（土）9:30～12:00
- 場 所：稲毛公園～川崎河港水門
- 主 催：多摩川流域懇談会
- 参加者：計41名（一般参加者19名・スタッフ22名）

2 プログラム

- プログラムの概要は表1に示す通りです。

表1 「第7回多摩川流域歴史セミナー」プログラム

項目	説明者	場所
開会挨拶	かみや 神谷 氏（多摩川流域懇談会運営委員長）	稲毛公園 （旧六郷橋親柱前）
見学スポットの説明	1班：田出 氏、岡部 氏 （NPO法人かわさき歴史ガイド協会） 2班：松本 氏、菅野 氏 （NPO法人かわさき歴史ガイド協会）	各見学スポット
閉会挨拶	くにがみ 国頭 氏（京浜河川事務所）	川崎河港水門付近

3

現地見学

当日は、2班に分かれて稲毛公園をスタートし、稲毛神社、東海道かわさき宿交流館、田中本陣跡、六郷の渡し、高規格堤防、川崎河港水門などの見学スポットを巡りました。

見学スポットでは、NPO 法人かわさき歴史ガイド協会の方々から丁寧な解説があり、参加者からは多くの質問や感心の声があがりました。

途中の東海道かわさき宿交流館では、映像資料を交えながら、江戸時代から現代に至るまでの川崎宿の変遷について非常に分かりやすく教えていただきました。

当日は横浜で35度超を記録するほど気温が高く、うだるような暑さの中での開催となりましたが、ガイドさんからの暑さを忘れるような興味深いお話もあり、無事に川崎を巡ることができました。



見どころが掲載されたしおり



見学ルート

3.1 集合

- 午前 9 時 30 分に稲毛公園の旧六郷橋親柱前に集合しました。
- 多摩川流域懇談会運営委員の佐山さんより、現地見学にあたっての注意事項やルートマップの説明がありました。



注意事項の説明

3.2 開会挨拶

かみや ひろし
神谷 博氏 (多摩川流域懇談会運営委員長)

- 多摩川流域懇談会の運営委員長である神谷さんより、多摩川流域歴史セミナーの主催者である「流域懇談会」についての説明、当日のプログラムについての説明がありました。
- 話の中で7月上旬の西日本豪雨災害にふれ、多摩川でも水害が起こりうるとのことでした。また、その時への備えも兼ねて、本日川崎を歩くことで地理感覚や歴史感覚をつかんでほしいとのお話がありました。
- ツアーのガイドである NPO 法人かわさき歴史ガイド協会の方々の紹介がありました。
- 京浜河川事務所の齋藤さんより、安全に関する注意事項の伝達、また多摩川改修百年を記念したキャラクターである「百川多摩」が描かれたのぼりの説明がありました。



3.3 見学スポットの説明



1班 田出氏、岡部氏

(NPO 法人かわさき歴史ガイド協会)

2班 松本氏、菅野氏

(NPO 法人かわさき歴史ガイド協会)

移動の途中には、しおりに掲載されているものを中心として、以下のような地形や自然環境、歴史に関する説明が各班のガイドからありました。

いなげじんじや 【稲毛神社】



稲毛神社は武の神とされるたけみかつちのかみ武甕槌神を祀った古社で、川崎区で最古の神社といわれています。御神木のイチヨウは樹齢千年といわれており、木を取り囲むように十二支の像が置かれています。自分の干支の像を拜むと厄除けのご利益があるそうです。

境内にはその他にもこどろ小土呂橋遺構や正岡子規の歌碑などがあり、稲毛神社が川崎とともに歩んできた歴史が随所に感じられました。

とうかいどう しゆくこうりゅうかん 【東海道かわさき宿交流館】



「東海道かわさき宿交流館」は東海道川崎宿の歴史、文化を学び、それを後世に伝え、地域の拠点となることをめざして整備された施設です。

当日はビデオを用いて、川崎の江戸時代から近代的な発展までを学び、川崎の発展には多摩川の水運と二ヶ領の用水が重要な役割を果たしたことを確認しました。

また、2,3階の展示室ではタッチパネル等を用いて宿場町について学ぶことができました。

たなかほんしんあと
【田中本陣跡】



本陣とは、主に大名や公家、旗本、高僧などを対象とした江戸時代の宿泊施設のことです。田中本陣は寛永 6 年(1629)に川崎宿で初めて設けられた本陣で、門構えや玄関があり延べ 231 坪(762 m²) の堂々たる建物でした。

本陣家の主人である田中休愚は本陣、名主、問屋の三役を兼務し、六郷の渡船権を譲り受けて、宿場の財政を立て直しました。参加者の中には、テレビの歴史番組で田中休愚を知っている方もおり、興味深そうにガイドの説明を聞いていました。

かわさきいなりしゃ
【川崎稲荷社】



古くから川崎新宿のお稲荷さまとして、土地の人々の信仰を集めてきた神社です。戦災で社殿や古文書は消失したため、創建は不明です。現在の社殿や鳥居は昭和 26 年(1951)頃、戦前の建物を模倣して再建されました。基礎の土留めにはニヶ領用水に架かっていた石橋の部材が使用され、土留めの外側には、橋の上を多くの人が歩いて磨耗した跡がうかがえます。

ちょうじゅうろうなし
【長十郎梨のふるさと】



病害に強く、甘味があり、収穫も多いことで有名な「長十郎梨」。この梨の生みの親、当麻辰次郎の故郷、大師河原村出来野（現在の日ノ出町）が発祥の地です。長十郎梨は明治 26 年(1893)、多摩川の河口近くで辰次郎が発見したと伝えられています。評判が良く大正初期には全国の生産量の 8 割を占めました。現在、区内では長十郎梨はつくられていません。六郷橋のたもとには案内板が置かれ、川崎大師境内には大正 8 年(1919)に辰次郎の功績を讃え建立された記念碑「種梨遺功碑」が残っています。

ろくごう わた めいじてんのう ひ
【六郷の渡し・明治天皇の碑】



江戸時代、東海道の往来のためには六郷の渡しは大切な要であり、幕府からの助成金によって常時10 数隻の舟で旅人や荷馬を渡していました。現在新六郷橋には、欄干の渡船のモニュメントとともに渡船跡の碑と明治天皇六郷渡御碑が建てられています。

参加者からは、明治元年(1868)の明治天皇の渡御の際にどのように川を渡られたかの質問があり、ガイドさんが、23 隻の舟を集めて橋のようにして渡られたと答えていました。

こうきかくていぼう
【高規格堤防】



京浜河川事務所から、堤防の幅が通常の堤防よりも広い「高規格堤防」の説明がありました。高規格堤防により、万が一計画を超えるような大洪水が起きて水が溢れることがあっても、堤防の決壊は防ぐことができ壊滅的な被害を避けることができます。

また、生態系保全の取り組みとして六郷地区に生態系維持空間が設定されていること、河道の変遷にともない現在はヨシ原の拡大が進んでいると説明がありました。



説明に用いたパネル（一部抜粋）

かわさきかこうずいもん
【川崎河港水門】



川崎河港水門は、多摩川から内陸部へと川崎区を縦貫する大運河の建設計画の一環として昭和 3 年(1928)に完成しました。社会情勢の変化から計画は中止されましたが水門だけは残りました。白く大きな水門の頭部にあるオブジェは、往時の川崎の名産物であった梨やブドウ、桃などがモチーフにされています。水門のデザインや規模が高い評価を受け、平成 10 年(1998)国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

3.4 質疑応答等

見学時に参加者から出された質問や感想について一部を抜粋してご紹介します。

【質疑応答】

Q：稲毛神社の社殿は比較的新しく見えますが、いつごろの建造ですか。

A：元は江戸時代の建造ですが、昭和 20 年の空襲後、昭和 38 年に再建して今年で 55 年目になります。

Q：(東海道かわさき交流館の展示室にて) 川崎市麻生区には、川崎市から離れた岡上地区があります。なぜ岡上地区は飛び地になっているのですか。

A：川崎市でははやくから浄水が敷かれました。川崎市となれば美味しい水が飲めるといふことで、住民の希望により岡上村が川崎市と合併しました。

Q：(明治天皇の碑にて) 明治天皇がお越しの際にはどうやって川を渡られたのですか。

A：川岸から対岸まで船を敷き詰め、船を橋のようにしてその上を渡られました。

【感想・意見】

- ・「長十郎梨のふるさと」とあるが、昔はこのあたりが果物の産地とは知りませんでした。
- ・(昔は日本コロムビアの工場が高規格堤防の近くにあったことを受け) 美空ひばりの港町 13 番地の楽譜が港町駅に飾られています。

3.5 解散



閉会の挨拶の様子

くにがみ まさのぶ
国頭 正信氏 (京浜河川事務所)

- 最後の見学スポットである川崎河港水門の近くで各班解散となりました。
- 京浜河川事務所の国頭さんより、午後の部の説明とともに、暑い中お越しいただいた参加者への感謝の挨拶がありました。

以上